

令和5年度 第3回大阪府立泉北高等学校 学校運営協議会 議事録

- 日時：令和6年1月31日（水） 午後3時45分から午後5時
- 運営協議会委員（敬称略）
 - 菊田 久雄（大阪公立大学 副工学部長）、中村 俊一（立志館ゼミナール館長）
 - 池内 博一（追手門学院大学 准教授）、仲里 セイ子（泉北高校 PTA 会長）
 - 吉原 朋子（泉北高校後援会 会長） 欠席1名
 - 校長、教頭（司会）、小田（事務長）、大内（首席）、篠原（進路指導主事）、榎阪（総合科学科長）、
富田啓（国際文化科長）

1. 校長あいさつ

インフルエンザによる学級休業を行った。環境人材育成事業で「脱脂粉乳の有効活用」についての発表をフェニーチェ堺で行った。今後も企業との連携をしながら研究を進めたい。国際文化科では LETS 合同発表会、インターナショナルフェスティバルに参加し、アイデア賞を受賞。泉北ニュータウンの緑道や近隣地域の活性化を図る活動も行っている。

両科とも魅力的な教育活動を行っている。

海外の学校との交流もオンラインで行っている。

帰国生選抜、一般選抜の入試が行われる。

2. 協議事項（敬称略）

- 令和5年度学校経営計画について、校長より説明
- 委員の皆さまからいただいたご意見・ご質問と事務局からの回答まとめ

校内初任者研修の内容説明

近隣中学生などへの科学教室について、過去に参加経験のある子どもたちには泉北高校に進学し、難関大学に進学した生徒もいる

各種アンケートの実施はデジタル化が進んでおり、大阪府教育庁が作成したフォーマットにより集計作業の負担が減った

SSHの指定が終了し、資金は無いが工夫しながらさまざまな活動を行っている

子ども科学教室参加者数については、子どもの数が減ってきているので現実的な数字に変更してみてもどうか。

コロナ禍で遅刻欠席が増えている。不登校生徒数も増えている。一般論として、インプットするもの（食べ物、聞くもの、などすべて含めて）によって人間は作られる。無批判ですべての情報を受け入れるのではなく、よく考えるべき。

いじめ対策について、アンケートはICTを用いて3回実施。集計後、聞き取りを行う対策を取っている。

ペーパーレス化について、会議などについては多く実施できている。教員の力量や、教科の特性もある。ペーパーレスのメリット・デメリットを考えながら実施している。課題のデジタル化についてはケースバイケースで、紙ベースとデータそれぞれの良さがあるため、どちらも活用している。書いて覚えることも非常に大切である。

高校生になると子どもが親にあまり話をしないこともある。泉北高校ではさまざまな情報発信をしてもらっているのがありがたい。

○令和6年度学校経営計画について、校長より説明

○委員の皆さまからいただいたご意見・ご質問と事務局からの回答まとめ

学習時間の目標数値について、負担感を検討しつつ具体的にどの教科を、何時間勉強したのかを集計してみてもどうか。1年生の学習時間の確保が重要であり、高校生活開始時に少なければ上げていくことは難しい。学校教育自己診断アンケート質問項目を「塾を含む」や「直近3ヶ月で」など、具体的ににしているかどうか。遅刻者数の目標数値を削除するが、調査は継続する。

○令和6年度学校経営計画について、委員の皆さまより承認を受けた

以上